

大腸がんの状況

わが国の大腸がんによる死亡数の順位は、男性2位、女性1位です。津市でも男女ともに上位に位置しており、大腸がんは命にかかわることの多いがんです。

がん死亡数の順位(2023年)【全国】

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃

国立研究開発法人国立がん研究センター

「大腸がん」「がん検診」などのがん情報についてもっと詳しく知りたい人は、国立がん研究センターのがん情報サービスをご覧ください。

国立がん研究センターがん情報サービス

ganjoho.jp



～個人情報の取り扱い～

がん検診結果や精密検査の結果は、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づいて、市へ報告されます。

がん検診を受けた医療機関以外で精密検査を受診した場合は、検診と精密検査を受診した医療機関間で結果を共有することがあります。

受診者の氏名や住所は、がん検診のアンケートや精密検査の受診勧奨通知等に利用することがあります。

津市や三重県の健康推進を目的に、がん検診や精密検査の結果について統計的な処理を行い、公表することがありますが、その場合個人が特定されることはありません。

津市 健康づくり課 令和7年6月作成



津市がん検診の対象は、 自覚症状のない人です

大腸がんの中には急速に進行するものもあります。血便、腹痛、便の性状や回数が変化したなどの症状がある場合には、次の検診を待たずに医療機関を受診しましょう。



自覚症状がない場合は、定期的に検診を受けることで、がんを発見できる確率は高まります。

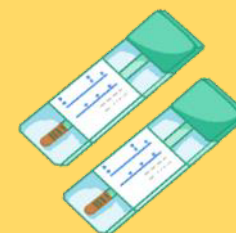


40歳以上の人は、1年に1度
検診を受けましょう

大腸がん検診

を受ける方、受けた方へ

早期発見・早期治療で命を守る



国は、受診を特に
推奨する者の年齢を
69歳以下としています

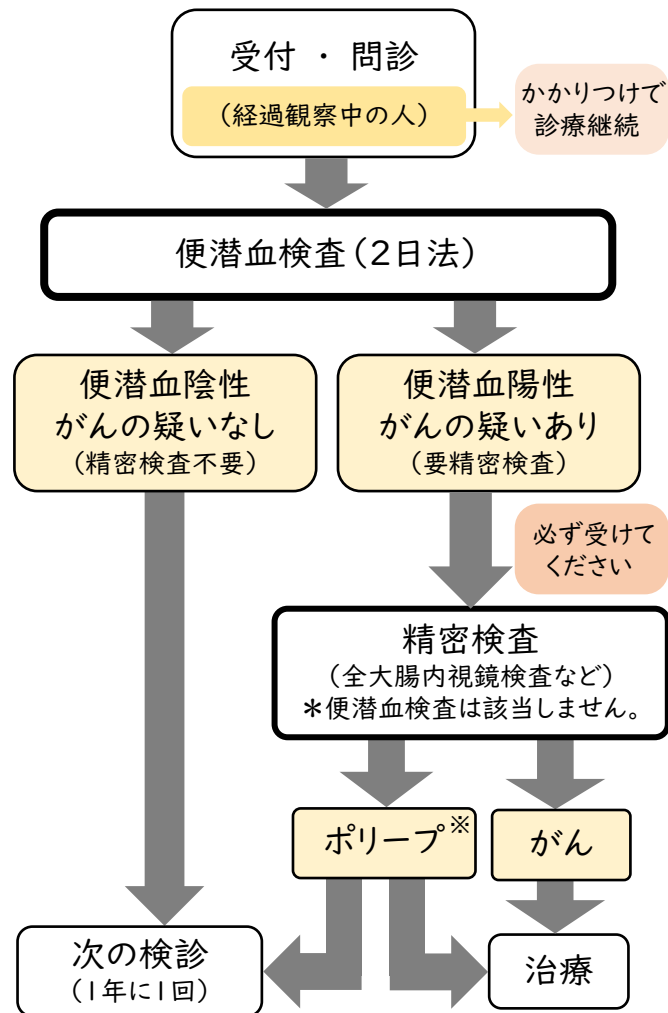
大腸がん検診の有効性

津市が推奨する大腸がん検診（便潜血検査）は、「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。デメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されています。

メリット	早期発見・早期治療	進行していない状態のがんを発見し、命を守ることができる
	安心を得る	検診で「異常なし」と判定された場合、安心できる
デメリット	偽陰性	がんが100%見つかるわけではない（精検不要とされたが、がんだった）
	偽陽性	結果的に不必要な治療や検査を招く可能性がある（要精検とされたが、がんではなかった）
	過剰診断	生命や予後に影響しない、微小で進行の遅いがんを見つけてしまう
検査に伴う偶発症		大腸内視鏡検査による出血や穿孔

大腸がんによる死亡数は、年々増加傾向にあります。そのリスク要因として、食習慣の欧米化（高脂肪・低繊維食）、運動不足、飲酒などがあげられています。

大腸がん検診の流れ



※ポリープが見つかった時には、大きさ、形態によって治療を行う場合や治療を行わず次の検診に進む場合もあります。

便潜血検査

便に混じった血液を検出する検査です。ご家庭等で2日分の便を採取します。

便潜血検査 (検便)



がんやポリープなどの大腸疾患があると、大腸内に出血することがあり、その血液を検出することが目的です（通常は微量で、目には見えません）。

精密検査は必ず受けましょう！

検査の結果、要精密検査となった場合には、必ず検診を受けた医療機関に相談してください。

精密検査の方法

《全大腸内視鏡検査》

下剤で大腸を空にした後、肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープ等がないか調べます。必要に応じて組織を採取し、悪性かどうか調べます。

《内視鏡検査とエックス線検査の併用法》

大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合には、内視鏡が届かない奥の大腸をエックス線検査で調べます。下剤で大腸を空にした後、肛門からバリウムを注入し、空気で大腸を膨らませて、大腸全体のエックス線写真をいろいろな方面から撮影する検査です。